

9月号

第416号

創刊 昭和29年7月
題字 鶴木大寿先生

会 報

富山県小学校教育研究会

発行日 令和5年9月

発行所
富山市千歳町1-5-1
(富山県教育記念館)

富山県小学校教育研究会

印刷所 中央印刷株式会社

素敵な時間を

富山県教育委員会 小中学校課長 山尾 佳充



この4月、小中学校課長を拝命しました。微力ではありますが、子供たち一人一人を支え、子供たちがたくましく未来を切り拓いていってくれるよう、本県教育の充実、発展に取り組んでまいりますので、よろしく願いいたします。

私は、小中学校課長と併せて幼児教育センター所長という立場にもなり、幼児教育についてもたくさん学ばせていただいています。幼児教育の大切さ、幼児教育と小学校教育との接続の重要性等を日々感じているところです。そうした中、先日、幼児教育施設での学習参観の機会を得られ、ワクワクして訪問してきました。園庭に向かうと、園児たちが思い思いの活動に元気よく取り組む様子が目に飛び込んできました。全身ずぶ濡れになりながら水を運ぶ子、木の根っこ辺りに隠れていたダンゴムシを友達と会話しながら観察する子、雨どいを使って水をたくさん流すために工夫する子、鼻歌を歌いながら一人で花びらをすり鉢に入れて色水を作る子（この子は友達のために一人で黙々と色水を作っていたことが、後になって分かりました）。園児たちの思い思いの活動（遊び）の中に、自分の思いや考えがありつつも友達と折り合いをつけたり、思うようにならないことにも粘り強く取り組んだり、友達と会話を重ねてよりよくしようと工夫を重ねたりと、たくさんの学びが見て取れました。どの園児たちも遊びに真剣で、キラキラした笑顔で溢れていて、そのような園児の姿を見て、私自身、心に力がもたらされた時間でした。

また、園児たちを見守る先生方は、園児一人一人を大切に、そして優しく見つめ、園児の言動に心一杯、体一杯に応えておられました。そして、時には園児の言葉にじっと耳を傾けられ、園児たちの遊びの中に学びの芽生えを見いだしておられました。その様子を拝見した私は、またまた心から感動し、とても素敵な時間を過ごさせていただき、心が満たされて帰路につきました。

さて、話は変わるのですが、先日、この3月に定年退職を迎えられた先輩方を囲む宴に参加してきました。先輩方は口々に、「同僚や子供たちのおかげで、教師として素敵な時間を過ごすことができました。これからの若い先生たちにも素敵な時間を過ごしてほしい」「子供たち一人一人の成長に寄り添えて、子供たちの成長の手助けができる素敵な仕事だよ」と、熱く語られていました。そのような先輩方の姿を見て、「教師」としての誇りを感じられた貴重な時間でした。

「教師」は、確かに大変な仕事だと思います。働く環境は、もっと改善していくべきだとも思います。一方「教師」は、子供たちから感動の時間をもらうことができる本当に素敵な仕事だと、私自身は心から思います。

私は、教師として何より必要なことは、子供たち一人一人を見つめられる目と心だと思って教師を続けてきました。ぜひ、皆さんには、子供たち一人一人を優しく見つめ育てていただくことを願うとともに、教師として心震えるような素敵な時間を過ごされることを心から願っています。